



## コンロ火災

### CASE 1 高齢者の着衣着火事例

■ガスコンロで鍋に入った料理を加熱していて、コンロの奥に落ちた箸を取ろうと手を伸ばしたところ、たるんだ衣服がコンロの火に接触。全身に火傷を負い、救急搬送されました。



実際に着火した衣類

### 高齢者のコンロ火災を防ぐため

- ✓ **鍋からはみ出るほどの強火にしない**  
▶ガスの炎は高齢者に見えにくいことがあります
- ✓ **コンロ周りは整理整頓!**  
▶ふきんや使用済み油は置かない
- ✓ **Siセンサー付きコンロで消し忘れ防止**  
▶旧型（2008年製以前）のコンロを使用していませんか
- ✓ **広範囲のやけど、熱気の吸い込みはすぐに救急車を呼ぶ!**  
▶生命の危険があります。我慢せず、救急車を呼んでください

### CASE 2 天ぷら鍋の失念・放置

■お客に料理を振舞うため、店主が天ぷら鍋を火にかけていたところ、忙しさのために失念。気づいた時には炎は天井に達しており消火器では消火困難に。全員無事に避難したものの店は全焼し1,000万円以上の被害を負ってしまいました。



### ? IH クッキングヒーターなら火災は起きない!?

### IHでも火災は起きます



直接火を使わないため安全な「IH」ですが正しい使用方法を知らないと加熱のしすぎから火災になることがあります。以下は実際にIHで揚げ物をしていて発火したケースです。

- IHに対応していない鍋での揚げ物  
▶安全センサーが正常に働かない
- 「揚げ物」モード以外での加熱  
▶必要以上に加熱してしまうおそれあり
- 油量が少なすぎる  
▶規程量より少ないと油量に合った加熱ができない

**揚げ物中はその場を絶対に離れないで!**